

一生青春

一生学究

「人生の達人」

ねい きよし
根井 浄さん(74)

昭和24年、宮崎県宮崎市で生まれる。幼少の頃、父の他界により母親の故郷である南島原市有家町へ。その後、島原市に移り島原第二中学校、島原高校を卒業し京都の大学へ進学。大学院修了後は日本学術振興会奨励研究員、神戸大学、京都女子大学、立命館大学などの非常勤講師を経て龍谷大学文学部教授(文学博士)として研究者の道を歩む。定年退職後は島原へ戻り、平成28年から肥前島原松平文庫長を務める。

「修験道とキリシタン」、「補陀落渡海史」(H14日本山岳修験学会賞)、「熊野比丘尼を絵解く」など著書多数。日本宗教学会代表委員、日本山岳修験学会副会長などのほか、島原市文化財保護審議委員会委員(H29～)を務める。島原市教育委員会表彰(R5)。新山一丁目在住。



輝く島原人

THE SCENE Vol.74 島原に生きる

西日本一の古典籍の宝庫

皆さんは「肥前島原松平文庫」をご存じですか？好学の家柄として知られた旧島原藩主・深溝松平家が歴代にわたって集めた一万点に及ぶ古典籍類(長崎県指定有形文化財)などが肥前島原松平文庫として島原図書館2階に保管されています。現在、文庫長として全国から訪れる研究者への対応や史料の保存・活用に取り組むのは根井浄さんです。

「質、量ともにこれほど揃っているのは国内でもトップクラスです。学界では『国文学を志す者は、松平文庫に一度は行け』という格言があります。年代が古いものや国内に二、三点しかない写本、全巻揃っている物語など、貴重なものが数多く保管されています。松平文庫の大きな特長は実物を見て触れることができるということ。伊勢物語や源氏物語など、教科書に出てくるような古典文学の写本もあります。実物を実際に見ることはとても意義があるので、高校生の皆さんにも学習などで活用してもらいたいですね。また、島原図書館には、貴重な絵図なども展示していますのでぜひ足を運んでみてください。」と、島原の宝である松平文庫について語ります。

ふるさとへの感謝の思い

文学博士として研究活動の傍ら短歌もたしなむ根井さん。「短歌は大学生の頃から詠んでいます。短歌結社「水甕（みづがめ）」にも所属し、新聞なども含め、これまでに千六百首ほど投稿しました。また、母校である有家小学校（南島原市）が、有家町内の3校が統合して新たな有家小学校として令和3年4月に開校しましたが、統合新設に際して校歌の作詞を依頼され制作しました。母校に貢献できたことはとても光栄なこと

です。」と、ほほ笑みます。校歌には地域の特色、自然や四季を感じさせる色彩などの言葉にこだわり、歌い

やすさも意識して作詞したそうです。

現在も複数の学会に所属して役員なども務め、研究や執筆活動など忙しい日々を送っています。「12月9日（土）に東京大学と島原市教育委員会の主催で「東大人文・熊野フォーラム in 島原」を島原文化会館で開催します。今はその準備を進めているところです。これに合わせて島原図書館では「肥前島原松平文庫展」も開催しますので多くの方にご来場いただきたいですね。」と、語ります。また、今後の目標をお聞きすると、「これまでの研究成果を活かして故郷に還元しな

ければと思っています。現在「肥前有馬と島原の時代」、「雲仙・普賢岳の日本史」を出版準備中です。自身を育てていただいたお礼として故郷の皆さんに読んでほしいですね。そして、この松平文庫の存在性、重要性を市民の方も含めて広く発信していきたいと思っています。」と、故郷への感謝と松平文庫への思いを語っていただきました。



根井さんは少年時代から足が速く「風小僧」の異名も。写真は高校での青春の1コマ（100m走）



古文書の修復作業のようす。高度な技術と専門知識が必要となります。

